



校長だより

日中丸



第 24 号
H30. 12. 14

日間賀中学校長
鈴木 康弘

※イラストは、本校生徒 宮地志奈さん が作成

持久走大会 12.11(火)

「自己のペースを守り、長い距離を走ることができる」「他者との競走の中で、自己の限界に挑戦する態度を養う」ことを目的に、持久走大会を行いました。学校周辺を、女子は 1925m、男子の部 2825m 走りました。出場した生徒全員が完走しました。これまでの成果を発揮できたようです。一生懸命走る生徒の姿に感心しましたが、それ以上に走っている仲間を応援する姿に感動しました。

当日は大会を安全に行うにあたり、走路での立哨等多くの方々にご協力いただきました。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。



島内清掃 12.5(水)

12月11日(火)の「持久走大会」を前に、持久走コース上のゴミ拾いを行いました。この取組は、環境美化委員会の企画・運営で進められました。全校生徒が5つのグループに分かれてそれぞれの分担場所のゴミを拾いました。30分程度の活動でしたが、たくさんのゴミが集まり、コースがきれいになりました。「持久走大会」当日は、気持ちよく走ることができました。

環境美化委員のみなさん、そして、清掃活動に取り組んだすべての日中生、ありがとう。



人権に関する道徳 12.6(木)

12月4日～10日の「人権週間」に合わせて、全学年が人権をテーマにした道徳の授業を実施しました。1年生は、「人権って何?」「『差別』と『区別』のちがひ」に学級全体で考えました。2年生は、「どうしたら『差別』をなくしていけるだろうか」についてグループごとに話し合った後、全体で意見交流を行いました。3年生は、「LGBT」について、ビデオ教材を視聴しながら考えました。

「世界中の差別をなくすのは難しいから、学校や身近なところの差別をなくす努力をする」「差別がなくなることはない。でも、教育を通じて重要性を学ぶことが大切」など、身近なところからの努力や自分たちにできることを実践していくことの重要性について考えることができました。



朝会より 12.10(月)

生徒発表（12月のテーマ：人権について）

鈴木莉沙さん（2年）

私は、人権と考えたとき、最初に「差別」が思い浮かびました。差別は、外国人差別や人種差別、障害者差別などがあります。なぜなくなるのか、私は考えてみました。

差別は自覚してするのではなく、自然にしまうものだと思います。それをなくすためには、どうすればいいのでしょうか。

私は、相手の気持ちを一番に考えることがいいと思います。なぜかというと、相手の気持ちを一番に考えると、自分では分からない気持ちが分かるようになります。だから、これから私も自然と差別をしないように、相手のことを一番に考えて接していきたいです。

鈴木麻友さん（3年）

私が入権と聞いて思いつくものは、人種差別です。

私は、以前に、道徳の時間に「LGBTQ」ということを習いました。「LGBTQ」とは、性的マイノリティのことです。同性同士の恋愛にはまだ批判的な声があります。ビデオでは、体は女なのに心は男という人と、恋愛対象が男性という人が出てきました。その二人は、言っても理解してもらえないというような理由で、家族にも友人にも言えないつらい状況だと思います。そのために、私たちができることは少ないと思いますが、理解をしようとして、差別しないことが大切だと思います。そして、差別のない世の中になってほしいと思います。

世界でも、多くの人が「LGBTQ」などで苦しんでいます。だから、私たちがそれを理解していくことが、差別がなくなっていく可能性を上げていくと思います。

校長の話

こんな話をしました。

先週の金曜日、12月7日は二十四節気の一つ『大雪（たいせつ）』です。

大雪には雪が激しく降り始めるころという意味があります。陽はさらに短くなって寒さが増し、冬が深まっていきます。そして、来年の1月20日の大寒、さらに、2月4日の立春までが1年のうちで一番寒い時期だといわれています。今年の冬は暖冬だといわれていますが、やはりこの時期になると寒くなってきます。この寒い時期を乗りこえるためにも、しっかりと体を鍛え、体力を付けたいですね。特に3年生は、体調を崩してしまわないようにしたいですね。

さて、体力を付けるための取組として、持久走があります。この時期に体育で持久走に取り組むのには意味があることは、先ほどの話の内容から分かると思います。明日の持久走大会は、その持久走に取り組んできた成果を試す場です。これまでの取組の成果を出せるようがんばりましょう。期待しています。